

*For PEACE in the World,
among YOUNG PEOPLE of
different Countries,
through CULTURE - Meeting,
Getting Acquainted,
Understanding each other to
develop Friendship among Peoples*



MANIFESTO

FONDAZIONE ROMUALDO DEL BIANCO

- JAPANESE VERSION -

*For PEACE in the World,
among YOUNG PEOPLE of
different Countries,
through CULTURE - Meeting,
Getting Acquainted,
Understanding each other to
develop Friendship among Peoples*



ロムアルド・デルビアンコ財団宣言文 公共性の価値と特殊研究機関におけるその発見

この宣言文は、保存の概念についての国際会議<クラクフ 2000>において初めて発表され、2001年2月23日にフィレンツェで行われた当財団の第三回懇談会で15ヶ国47名の専門家の出席のもと修正が加えられ採択された。www.fondazione.delbianco.orgで十カ国語において読むことができる。

1 – 初めに

ロムアルド・デル・ビアンコ財団の使命は、越境する相互補完の確立への貢献にある。当財団は、異なる文化と国の若者が相互理解や友好関係を促進し、さらには世界平和の発展に貢献するために集い、知り合う場としての国際的な会合や事業をフィレンツェにおいて設けている。

2 – 前提

2.1 – 社会参加の人生

人生の意義は絶え間なく人間関係に対峙することにある。当財団は、この社会参加への取り組みを理解と真の友好の国際ネットワークの発展への貢献としてとらえている。かつては孤立していた国々の開放による移民の波によって特徴付けられるこの歴史的瞬間においてはこの見解が意味するところは大きい。

2.2 – 自由と真価

われわれが念頭におくのは、<非民主主義的>体制を長期間忍んだのちに、現在ようやく自由、思想の自由、投票の自由、宗教の自由、つまるところ自由にふるまうことのできる自由を享受しているひとびとである。

これらすべての自由は各自の可能性へのより高い自覚、さらには自己への確信をもたらすことにより、彼らに生活水準の向上を約束するであろう。

これらすべての自由はきわめてプラスである。がしかし、引きかえに何が失われることになるのか。

*For PEACE in the World,
among YOUNG PEOPLE of
different Countries,
through CULTURE - Meeting,
Getting Acquainted,
Understanding each other to
develop Friendship among Peoples*



2.3 – 利己主義と消費主義

真心のこもった小さなことにも感激できる自発性と喜びを評価する能力が失われる恐れがある。この喪失はプラスではない。必然性の理屈はさておき、使い捨てるの慣習をもたらすことになる。そのような悪癖は破壊的な力でもって社会関係、つまり多くの側面において社会の基盤となっている家庭内においても利己主義を称揚することになる。

2.4 – テクノロジーとコミュニケーション：個人主義と孤立

テクノロジーの進化も、社会にコミュニケーションの発展を促すのではあるが、個人主義そして孤立を増大させる大きなリスクをもたらす。

2.5 – 人間の真価

本質的な人間の価値が失われるリスクが存在している。もはや錯乱状態に囚われてしまったかのような感覚がする。正しき道はどれか。文化と社会の進歩はどこにあるのか。その一方で、分相応の発展が吟味されることなく、無意味で機械的、近視眼的な天然資源の浪費が広まっている。

全体主義体制をとっていた国々では、個人はみずからの人間性と真価を守るため、自分の殻の中に閉じこもりがちであった。民主主義の不在は、逆説的に、これらの国々にいにしへの価値観の保持を可能にしていたのではと思わせる。

そうであるならば、民主主義の不在に長期間忍んだのちに現在このいにしへの価値観を表舞台に取り戻そうとしている国々は、他の国々におけるそれらの再度の開花を助けることができるのではと考えられる。

3 – 歴史的財産と越境する相互補完

文化財は、出会いの場、それから交流、個人個人が知り合うこと、理解や友情のための原動力たりえる。ために観光は、平和を広めるための大きな仕掛けとしてありえよう。しかし従来の観光は一般的に個人的な欲求のための観光であって、一種の利己主義的なそれである。

概して観光客が、訪れている国の人々と交わることはない。

二十世紀後半にさかんになった駆け足旅行のような従来の観光には、しばしば当然の帰結として、個人主義の増長をおもむきのあるリスクがある。

観光客をひきつける歴史的都市は、国際的な観光スタイルに適切なサービスを提供するためにその容貌を変えてしまう。しかし実際のところ、あるのはビジネス上の理由のみである。せっかちな観光

*For PEACE in the World,
among YOUNG PEOPLE of
different Countries,
through CULTURE - Meeting,
Getting Acquainted,
Understanding each other to
develop Friendship among Peoples*



客は訪れる街の人々と友好関係を結ぶことに興味をもたないのであるから。そうしてせいぜい確認される交流（言葉や視線など）は、ビジネスに役に立つ（売るため買うための）機能主義な交流だけであり、結果は水と油のはじきあいであって、相互補完は不可能となる。

そのうえ観光客をむかえる街はサービスを提供するためにはたらく。そのもっとも厄介な仕事をひきうけることになっては、ビジネスへと向かい、しばしば経済性のみで縛られた志向性までをも持つにいたる。これにとどまらない。物事がおこるがままにまかせてしまい、街は観光客の流入の増加を調整する計画作成の重みを見せしめ、統制を欠く肥大化のマイナス効果を被るリスクを犯すことも往々にしてある。街が住民に悪影響を及ぼすことなく、また観光客の流れをいつまでもあおってしまえないように、実に計画作成は分相応な発展の限界と条件とに焦点をあてるべきである。いいかえれば、分相応な発展の検討なしでは、住民は観光客を、豊かさとしてではなく、街や住民にとってのマイナス要素としてとらえかねないのだ。

住民および来訪者の利益、またわれらが歴史的都市の将来の利益のため、可能な発展の限界を明らかにするひとつひとつの都市設備の役割を定めなければならない。われわれの街が徐々に観光客のための巨大な美術館、ゆえに住民のためにあるのではない街、ゆえにもはや街とは呼べないものへと転じてしまわないように。

2000年10月26日のクラクフ会議文書の「マネージメント」の項に、うまくさばけておらず、ゆえに害のある観光のリスクがきわめて明確に述べられている。

4 – 提言；公共性についてのいにしへの価値の保存と再発見を目的とする<

相互補完ラボ>

4.1 – 越境する相互補完のための研究

われわれが考えるに、異なる文化あるいは国の人々のあいだの直接的な公共性の増大に役立つための、または多様性を尊重しながら<越境する相互補完の文化>の成長を促すための集いは可能である。

そのゆえ、認識し理解すべき文化的位相としての違いを称揚しつつ、互いの価値を理解するための人々の集いと両方向的な認識とを約束するような組織の実現を信じる。すなわち人々のあいだに真の化学反応的な解決策のための、よりよい世界の実現への貢献のための集いを約束するような組織である。

帰結として、これまでを簡潔にまとめると、主に二通りの会合が定められよう。

a) 観光

*For PEACE in the World,
among YOUNG PEOPLE of
different Countries,
through CULTURE - Meeting,
Getting Acquainted,
Understanding each other to
develop Friendship among Peoples*



– 実用的観光（ビジネス、保養など）

– 利己主義的観光（文化あるいはスポーツなどに関する個人の楽しみのための観光）

b) <越境する相互補完のための研究センター>の活動

手短かに言って、当財団は肥大する個人主義と継続的に成長する浅薄さに異を唱えるため、<越境する相互補完のための研究センター>の活動にうって、われわれ自身の再発見のための異種の形態の集いを望む。われわれの社会は、観光によって得られる経済金融資源だけでなく、この三千年紀のはじまりにおいて、よりよい成長を約束してくれる研究所の活動も必要としているとの確信がある。本来ならば一連の手段に含まれるべきで、決して目的の座に就いてはならないお金、権力、名声、享樂が追い風にのるこの時代においてである。存在（どうあるか）が所有（なにをもっているか）に絶対的に勝る千年紀にしようではないか。

<越境する相互補完ラボ>の成果は、浸透性のある自然な方法で日常生活にとり入れられなければならない。<越境する相互補完のための研究センター>の活動は、出会い、お互いに知り合うこと、理解、そしてひととひととのあいだの友情を称揚することを目的とし世界平和に貢献する。まずは異なる文化と国の若者が対象となる。

携わる人々の想像力と個人の才能、活力、感動それに努力の注がれた、この挑戦を盛り上げるための自由なイニシアチブが活動の鍵となる。

*For PEACE in the World,
among YOUNG PEOPLE of
different Countries,
through CULTURE - Meeting,
Getting Acquainted,
Understanding each other to
develop Friendship among Peoples*



5 - おわりに：ラボにて、平和を越えて

平和を越えて、社会参加の取り組みとしての人生の重要性を確認するために。はてしない使い捨て消費に日増しに傾く日常生活に大きく影響されがちなわれわれのふるまい方を修復するために。現代の生き方は、今日特に貴重となっている修復と保存の概念とに根本的に拮抗するスタイルである。過去をみつめる、または歴史的遺産や社会的価値をみつめるときのわれわれに悪影響を与えないような取り組みとしての生き方。自由諸国は国境を越えた社会化のプロセスを、公共性についてのいにしへの価値の研究、保持、修復それに再生という助けを得て、個人主義と利己主義の管理を補償するために自らの社会の均整のとれた成長に関する有効手段とみなし、それに投資するよう決定せねばならない。孤立の支配する世界から離別し民族のあいだの友情をさらに称えていくために。

ロムアルド・デルビアンコ財団

Fondazione Romualdo Del Bianco

address: Palazzo Coppini – Via del Giglio, 10 – 50123 Firenze, Italia

tel: +39-055-216066

fax: +39-055-283260

e-mail: secretarygeneral@fondazione-delbianco.org

<http://www.fondazione-delbianco.org>